

3期連続最高評価

国の健康増進研究プロジェクトで弘大COI

国の採択を受けて健康増進研究プロジェクトに取り組む弘前大学COIが、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の総合評価で最高評価の「Sプラス」を獲得した。過去2回の中間評価でも「S」「Sプラス」を得ており、3期連続の最高評価は全国18カ所のCOI拠点

で同大のみ。同大COIを先導してきた大学院医学研究科特任教授の中路重之拠点長は「『短命県返上』という目標の達成までもう一步のところまで来ている。実現させて、ビッグデータの活用もさらに発展させていく」と展望した。

（石田紅子）

短命県返上まで「もう一步」

ビッグデータ解析で成果

弘大COIの中心取り組み「岩木健康増進プロジェクト」の健診。2021年11月16日



革新的イノベーション創出プログラム「COI（センター・オープン・イノベーション）」は文部科学省の研究開発支援事業でJSTが実施機関。同大は2013年に採択され、9年間の期間を経て今年度終了する。同大COIの中心取り組みが弘前市岩木地区の住民を対象にした大規模な追跡健診「岩木健康増進プロジェクト」。昨年で17年目を迎え、3000項目以上を多種多様なビッグデータを追跡調査する「いきいき健診」や啓発に力を入れた「QOL健診」も確立し、ビッグデータ解析による

スケア分野に取り組む企業が新たな技術や検査方法などを持ち込む場としても成長。同大COIはビッグデータを中心に「郷官孝民」が連携するプラットフォーム（中路拠点長）として認知された。ほかに高齢者の健康状態を追跡調査する「いきいき健診」や啓発に力を入れた「QOL健診」も確立し、ビッグデータ解析による

疾患予防法・予防法の開発に多くの成果を上げていく。同大COIの村下公一副拠点長は評価の結果を受けて「政府の大型プロジェクトで最高評価を得たことは大きな自信にもなり、関係者共々喜びたい。これまでの成果を基礎に、今後も地域の健康づくりと、新たな産業創出に向けて力強く取り組んでいきたい」と喜んだ。

こうした成果にJSTは、21年度に公表したプログラム全体の評価の中で同大COIを「国際展開の観点からも一層の推進と活用の見通しが認められる」拠点の一つとして紹介した。同大COIの研究活動は継続され、新年度にはJSTの「共創の場形成支援プログラム」（COIネットワーク）の採択を目指す。中路拠点長はCOIの研究活動が「弘前大学の発展、企業の経済発展、ひいては地方創生につながる。ビッグデータは想像以上の可能性を持つ」とし、今後の展開に意欲を高めている。